

外国語

外国語科においては、自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育むことが課題です。そのため、「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標を適切に設定し、活用すること、単元や1単位時間の中に目的や場面、状況等を設定した言語活動を計画的に位置付けること、コミュニケーションの手段や必要な練習に用いるなど、ICT端末を目的に応じて活用することが大切です。

I 目標の明確化や評価の充実のポイント

外国語科においては、自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力に身に付けることができるよう、各学校における生徒の実態等を踏まえ、学年ごとの目標を適切に定めることが大切です。そのため、学習指導要領を踏まえて「CAN-DO リスト形式」の学習到達目標を設定し、公表することや、目標の実現状況を把握することなどが必要であり、設定した目標に基づき、ゴールの姿を生徒と共有するなどして、生徒が見通しをもって学習活動に取り組めるようにすることが重要です。また、学習活動に正対したペーパーテストやパフォーマンステスト等の学習評価を行うことにより、指導と評価の一体化を図ることも大切です。

II 指導計画の改善のポイント

自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育成するためには、単元の指導計画において、①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する、②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる、③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う、④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行うなどの学習過程を位置付け、学んだことの意味付けを行ったり、既得の知識や経験と、新たに得られた知識を言語活動で活用したりできるよう工夫することが大切です。

また、育成を目指す力を確実に身に付けることができるよう、各単元において、重点を置く領域を明確にし、単元終末の生徒の姿を明確にすることにより、必要な学習活動をバックワードデザインで組み立てることも大切です。パフォーマンステストでいきなり即興的なやり取りをさせるのではなく、言語活動と中間評価（活動と活動の間の指導）を繰り返しながら生徒が実際に思考・判断・表現する場面を計画的に単元に位置付けることが大切です。中間評価の際には、生徒が現在できることと単元終末までにできるようになりたいことを生徒自身に自覚させることで、次の言語活動を充実させることができます。

III 手立ての充実のポイント

ICTを効果的に活用することにより、言語活動をより充実させたり、生徒一人一人がそれぞれの状況に応じて学習に取り組んだりすることができるようになります。例えば、ウェブ会議機能等を用いることで、遠隔地の人に何かを紹介したり意見を交流したりするという活動が、相手からのフィードバックがある「実際のコミュニケーションの場面」になります。また、学習者用デジタル教科書を用いて音読練習をしたり、本文内で、言語活動で使用したいと思うものや苦手な英文に下線を引いて繰り返し練習したり、自身のスピーチ映像を録画して改善ポイントを友人と一緒に話し合ったりするなど、生徒一人一人が状況に応じて学習に取り組むことができます。

自分の考えや気持ちなどを適切に表現する力を育む計画の改善

<単元名>

NEW HORIZON English Course2 Unit3 「My Future Job」 話すこと[発表]イ

<学年の目標>

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。

<単元の目標>

次年度、職業体験を行う1年生に、職業体験先選択の参考となるよう、職業体験の内容や感想、自分が考えたことなどを話すことができる。

【1学習到達目標の活用】

・学年のCAN-DOリストを基に単元の目標を設定する。1つの単元で全ての領域・技能を評価するのではなく、焦点化し、年間を通じて、各単元にバランスよく位置付けている。

<単元の評価規準>

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>[知識]</p> <ul style="list-style-type: none"> 不定詞や It is...+ to + 動詞の原形の文の特徴やまじりを理解している。 <p>[技能]</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業体験の内容や感想、自分が考えたことなどを、不定詞などを用いて話す技能を身に付けている。 	<p>次年度、職業体験を行う1年生に、職業体験先選択の参考となるよう、職業体験の内容や感想、自分が考えたことなどを、簡単な語句や文を用いて話している。</p>	<p>次年度、職業体験を行う1年生に、職業体験先選択の参考となるよう、職業体験の内容や感想、自分が考えたことなどを、簡単な語句や文を用いて話そうとしている。</p>

<単元の指導計画(7時間)>

時数	学習活動	評価規準・評価方法等	
1	<p>○単元の目標を理解する。</p> <p>「1年生が来年職業体験を行う際に、職業体験先選択の参考となるよう、自分が体験した職業の内容や感想、自分が考えたことについて伝えよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己目標を設定する。 <p>○教科書の対話文を聞き、分かったことについて、ペアに伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 対話文で使われている未知の語の意味や不定詞(副詞的用法)の構造と意味を理解する。 		<p>【Ⅰ学習到達目標の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元の始めに本単元の目標を生徒と共有し、1単位時間の授業のねらいを明らかにしている。
2	<p>○教科書のインターネット記事を読み、引用するなどしながら、考えたことや感じたことについて伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書のインターネット記事を読み、What can we do with computers?の質問に対して、本文から引用するなどして、自分の考えや感想をペアで伝え合う。 引用するための英語表現や自分の考えを適切に伝えるための表現について確認し、必要に応じて個人練習を行い、インターネット記事の内容に関して、自分の考えや感想などを1回目とは異なるペアで伝え合う。 		<p>【Ⅱ言語活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動→指導→活動を繰り返し、生徒が目的・場面・状況に応じて何をどのように伝えるかを思考・判断・表現する場面を計画的に単元に位置付けている。
3	<p>○教科書の対話文を読み、対話文を引用するなどしながら考えたことや感じたことなどを伝え合う。</p>		<p>【Ⅱ言語活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導の際に、分からない表現の確認等、生徒に課題を自覚させるだけではなく、効果的な表現を全体で共有することで、次の言語活動の充実につなげる。
4	<p>○教科書の対話文を参考にしながら、自分が気になる職業について伝えたり、相手に勧めたい職業を伝え合ったりする。</p>		<p>【Ⅱ言語活動の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書本文の内容理解で終わるのではなく、自分の考えを形成・表出するなどして、言語活動に教科書を活用している。
5	<p>○教科書のレポートを読み、参考にしながら、自分が選んだ職業や体験した内容を簡単にまとめて伝える。</p>		
6	<p>○教科書のレポートを読み、参考にしながら、職業体験を通して考えたことや感じたことなどについて伝え合う。</p>		<p>【Ⅲ1人1台端末の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用して生徒が音読練習をしたり、使いたい表現に下線を引いて繰り返し練習したりする。
7	<p>○職業体験先選択の参考となるように、自分が体験した職業の内容や体験した感想についてスピーチをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 原稿を読むのではなく、伝えたいキーワードのメモを基に、スピーチをする。 1人1台端末でスピーチを録画し、映像を基により相手に伝わるスピーチにするために、ペアで改善ポイントを話し合う。 スピーチの内容や構成を見直し、ペアを変えて、再度スピーチを行う。 スピーチを再度録画し、パフォーマンステストに向けて、自己目標の達成状況を確認し、改善点を明らかにする。 	<p>※ 第1時～第7時まで、記録に残す評価は行わない。</p> <p>ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確認に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。</p>	<p>【Ⅲ1人1台端末の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自身のスピーチ映像を録画することで、自己のスピーチを客観的に見直している。ペアで確認することで、内容面及び言語面の充実を図っている。
後日	<p>○パフォーマンステスト</p>	<p>[知・思・態]</p>	